



神奈川学習センターでは今年も紫陽花が咲きました

目次

新任所長からの挨拶 成人の学びを確かなものに	2
洗浄科学：広さを求める研究分野の紹介	4
2026(令和 8)年度 神奈川学習センター開講ゼミ一覧	5
所長及び客員教員の異動について	6
春のフェスタ・ヨコハマ	6
2025(令和 7)年度 学位記授与式	7
2026(令和 8)年度 第 1 学期 入学者の集い	8
学生生活に関するアンケート	8
学生サークルからのお知らせ、神奈川同窓会だより	10
K-サポートからのお知らせ	11
神奈川学習センターからのお知らせ	12

新任所長からの挨拶 成人の学びを確かなものに

放送大学神奈川学習センター所長
加藤 圭司



◆ 所長就任のご挨拶

本年4月、大谷英雄前所長の後任として、放送大学神奈川学習センター所長に就任いたしました加藤圭司です。大谷前所長は、コロナ禍真っ只中の2022年から4年間、感染対策の対応を含んで本センターの舵取りを担ってこられました。今般、その大切なバトンを受け継ぐこととなり、身の引き締まる思いです。これまでの所長が取り組んでこられた試みをしっかりと受け継ぎながら、地域との連携を密にするとともに、面接授業やゼミ、サークル活動等の支援にあたりたいと思います。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、これまで一貫して教育学の中の学校教育分野に身を置いてまいりました。具体的には、教科教育学の中の科学教育・理科教育学が専門分野になります。これまで私は、「子ども達は、いかにして自己の内面に科学概念を構築するのか」を追究してきましたが、放送大学着任を機にその視点を生涯教育・生涯学習に拡げ、改めて「(人間の)科学の学び」をとらえ直してみたいと考えています。人と科学の接点やその拡がりについて、少しずつでも興味を持っていただければ幸いです。

◆ 学ぶ意欲を支え、人と人をつなぐ学習センター

さて、新入生の皆様、そして在学生の皆様は、新年度という節目を迎え、それぞれに目標やペースを見定めて、気持ちも新たに学びをスタートさせておられることと思います。このような自分で学びを組み立てるといふ進め方は、通信制大学の良さや強みであると同時に、高いハードルであると言われる。定めた目標に向かって粘り強く努力することや自らの学びを振り返って整理すること、先に向けて次なる学びを決めていくことなどの知的作業は、自律的・自己調整的な学びと称され、それぞれが大事な要素になるわけですが、実はこれが苦手だとおっしゃる方が少なくありません。学びが個に閉じた状況が続けば、なおさらであろうと思います。でも、そんな時にこそ、地域の拠点である学習センターを活用していただきたいと思います。面接授業の受講、ゼミやサークル活動への参加を通して仲間をつくり語り合う中で、新しい気付きや共感を得ることができて、

「学びたい」という意欲を持ち続けることができるように思うからです。学習センターは、学びを進め深める場であるだけでなく、人と人がつながり互いに支え合える場でもあります。是非、足を運んでいただければと思います。

◆ 成人の学びを進めるためのポイントとは

神奈川学習センターでは、新年度を迎えるにあたり、「(放送大学における)勉強の仕方講習会」を所長が講師となって実施しています。今年度は、僭越ながら私が担当させていただき、成人の学びを進めていくためのポイントについて、私なりの視点からお話をさせていただきました。今回、お伝えした内容の要点は、以下の3点になります。

- ① 必要な情報は自分で入手する、という姿勢(PCやスマホを用いて、批判的思考を働かせながら)
- ② 学んだ知識や経験などを関連付けたり統合したりして、包括的な考えや一貫した原理の創出を目指す(知的経験としての「高みに上る」感覚の感受と共に)
- ③ 分野・領域の学習を始める際に自分なりの「問い」を持つ。さらに、学びの進展と共にその「問い」を洗練化・焦点化する

①ですが、就学に関わる必要な情報は自分から取りに行く、という意識・姿勢を持つことです。これは、通学制の大学にも当てはまることですが、放送大学ではクラス編成がありませんので、ホームルームで連絡事項が特定の先生から伝えられるということもありません。多くの情報は、学習支援システム(システムWAKABA)やウェブサイトに掲載されますので、それらに個人でアクセスする必要があります。また、ネット上に掲載される情報は、その多くがテキスト形式であるため、情報を適切に読み解く力、すなわちリテラシー(読解力)を高めることも大切なことであると思います。

②ですが、多くの方が学齢期に経験された「記憶し蓄積する学び」を超えて、既存の知識や経験を相互に関連付けたり統合したりする中で、その原理や構造、その核心部分を自分で見出していく学びを目

指すことです。「(分野や領域の)本質に迫る学び」と言い換えられるのかもしれませんが、そして、願わくは「あの時に学んだ内容や体験した出来事は、この理論や考え方でこんな風に説明できるんだ!」という納得感や成就感を、その学びと共に感じていただきたい。私なりの表現を用いるならば、「高みに上って、もう一度周囲(≡それまでの学びの道のり)を見渡し直した時に味わえる感覚」です。この感覚は、自律的・自己調整的な学びの原動力にもなっていくので、大切にしたいと思っています。

③は、先の②の学びの実現においても必要になることですが、自分なりの「問い(問題意識)」を持って学び始めること、それを学びの進展に即して洗練させ焦点化していくことです。多少漠然としていても、問いを持っていれば、学習が進んだ段階でそこに戻って学習したことを関連付けることができます。そして、学びの進展に即して学術的な観点からの問いに修正したり、洗練化させることができたりもします。結果、学習を終える頃には自分の問いに引き付けながら統合することも可能になり、より広く深く学ぶことに繋がっていくように思います。

この②と③は具体例があると分かり易いので、例をあげてみます(図1を参照)。「野菜や果物を栽培・収穫して、販売等ができるようになれば・・・」という、学習の動機を持った A さんを例にします。A さんの入学時の問いは、「現代の農業って、どうなっている?」と仮定します。この動機と問いを持って、放送大学に入学した A さんですが、野菜や果物の栽培とその商売を動機として持ったわけですから、栽

培方法や技術等から学び始める、つまり「農学」を学ぶのは自然な流れでしょう。そして、学びをすすめる中で「生産性の向上や経営の安定化」であるとか、「売れ筋の野菜や果物、それらの食し方や調理方法」等に関心が広がると、その学問分野・領域に応じた具体的な問いを立てることができるようになると思います。このような過程を経る中で、興味・関心がネットワーク化するとともに、学問分野の視点から問いが焦点化され、学んだ内容も相互に関連付けられる中で、農業に対するより広く深い理解に到達できるのではないかと、ということです。

以上をまとめますと、成人の学びに向けて大切なことは、自分の当初の問いを見失わないことと、自分の考えの移り変わりを自覚しつつ問い直しができること、そして、知識等を関連付けた広く深い理解を創り出すことです。

◆ 放送大学で成人の学びの実現を!

ここまで成人の学びを進めるためのポイントについて、その一部をお伝えしてきましたが、これらの内容から大学という制度に則って科目履修を重ねていくだけでは、期待した成果に結びつきにくいということが、少しお分かりいただけたかと思います。

学生の皆様がお持ちである「もっと知りたい」、「学びたい」という意欲や動機が、放送大学の学びで確かに成就されることを願って、我々センターの教職員は全力で応援して参ります。新しい学びをスタートさせた新入生、ならびに在学生の皆様、放送大学で成人の学びを是非実現させていきましょう!

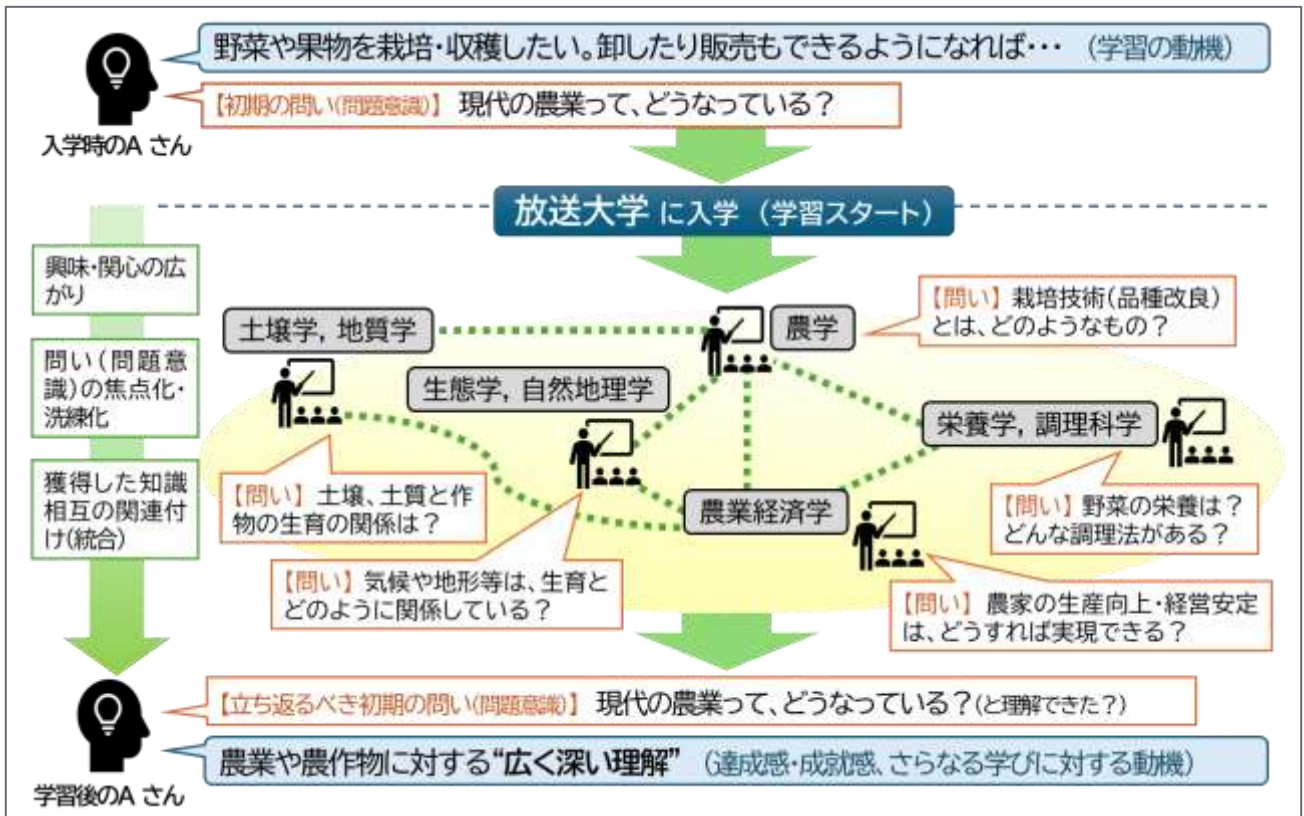


図1 「農業」を学ぶことを例にした「問いの焦点化・洗練化」と「情報の関連付け」を通した学び

洗浄科学：広さを求める研究分野の紹介

神奈川学習センター客員教授

大矢 勝



1 はじめに

研究は一般に特定のテーマを掘り下げて知見を広げ、特にその掘り下げの深さが深いほど評価される場合が多いのですが、中には広さを求める研究もあります。私が専門としている「洗浄科学」が広さ追求型の代表例だと思いますが、ここでその広さ追求型の研究の面白さを紹介したいと思います。

2 私の洗浄研究の経緯

実は学問体系の中に「洗浄科学」という分野は正式には存在していません。家政学の衣生活分野では洗濯が取り扱われ、医学の衛生分野の中では消毒等が扱われ、金属加工の分野では金属加工後の切削油の除去が扱われるなど、洗浄関連の事象は種々の分野で扱われているのですが、それらをまとめて「洗浄」として扱われることはほとんどありません。生活場面では洗濯、掃除、食器洗い、身体洗浄など、商業洗浄では衣類のクリーニング、ハウスクリーニング、ビル洗浄、道路洗浄、車両洗浄など、産業洗浄では金属加工、機械工業、食品工業等の洗浄、プラント洗浄、美術品のメンテナンス、病院内の衛生確保等、非常に広い分野で洗浄は重要なプロセスとなっています。しかし、各分野において洗浄は工程の一段階であることが多く、洗浄の専門家というのは一般に分野ごとに全く異なり、他分野の洗浄関係者との間で情報交換することもあまりありませんでした。

私の場合は大学・大学院（修士）において衣類の洗濯に関する分野で泡沫を利用する洗濯機と、それに適した洗剤を開発するという研究を行いました。大学院修了後は短期大学で講師を務めながら隠れ院生の形で泡沫洗浄の研究を続けて学術博士（論文博士）の学位を取得しました。その後横浜国立大学教育学部の家政学分野に採用されましたが、教育現場では洗剤の毒性や環境影響に関心が高いことを知って、関連の消費者情報の分析研究を行いました。その後環境関連分野に異動し、洗剤の水生生物への毒性評価や、新たな洗浄力指標の開発等の研究を行うこととなりました。それまでの洗濯中心の視点から、掃除、食器洗い、身体洗浄をはじめ、産業洗浄にもかかわるようになりました。

その後、大学改組の中で理工学部の化学応用系の

担当となり、無機化学や分析化学の授業を担当することとなり、研究も酸・塩基、酸化・還元、キレート等の関連する洗浄技術に広めていくこととなりました。それまでは界面活性剤を主体とした洗浄をメインのターゲットとしていたのですが、一挙に研究対象の範囲が広がりました。そうすると、洗浄であればどんな分野の事柄でも対応できるようにしたいとの欲が出て、菌類の衛生試験、臭いの除去、外科手術での膿の除去等にもタッチするようになりました。そして現在では、幅広さでは日本一の洗浄研究者と自負できるようになりました。

3 深さよりも広さを求めて

洗浄は生活環境管理に非常に重要であるため、TV番組等でもよく扱われますが、その中で監修やコメントする専門家として声をかけて頂くことも多く、これまで100件以上の番組に関与してきました。その過程で米のとぎ汁、ビール、クエン酸、重曹などの話題に触れることも多く、番組制作時には無難なコメントに抑えていましたが疑問点も多く残り、後にそれらを題材として学生さんに研究してもらって更に深い知見を得て自信を深めることもできました。

洗浄に関する技術相談を企業から頂くことも多く、その内容もプラントや車両等の汚れ除去、洗剤開発、洗浄水処理など多様ですが、基本的に他分野の技術の応用で解決を目指すというものが多かったように思います。広範囲に知識を拡張して新たな知識連携を見出して問題に対処するというものです。

研究の深さという点では私にはあまり自慢できるようなものはありません。例えば、界面活性剤の専門家として扱っていただくことも多いのですが、界面活性剤について私より詳しい方は日本中にいくらでもいます。酸や塩基、キレートに関しても、その毒性に関しても本当のプロに比べると、私などは足元にも及びません。但し、広さでは私に利があります。ある汚れの除去を目指す場合に、界面活性剤、酸、塩基、酸化剤、還元剤、キレート剤、水流ジェット、超音波、紫外線等の様々な手段の中から何を選べばよいかといった場面では私は結構有利になります。手段は何でもよいので汚れを落としたいという場合に私は強みを発揮できるのです。

4 広さを求める研究の魅力と学生への期待

研究の最高峰に位置付けられるノーベル賞は基本的に研究の深さが評価されます。ですので私の洗浄研究は残念なことに奇跡が起こってもノーベル賞の対象にはなり得ません。ただし実用分野では大変役立つ内容を含んでいます。実際、現象として面白いかもしれない話題であっても、実用的応用の可能性が見出せないものに私はあまり関心を抱けない体質になっています。そして企業等での実際の技術改善等に私の知識・経験が役立つ際にはとても大きな喜びを見出せます。

もともと応用研究分野は基礎研究分野に比べて深さよりも広さを求める傾向があります。横浜国立大学理工学部の化学系学科には化学系のコースと化学応用系のコースがあるのですが、入学1年後に学生に希望によって振り分けをします。私は化学応用系のコースの代表を務めていた時に振り分け前の学生

への説明で「有機化学、無機化学、物理化学、分析化学等のどれかを選んで深く学びたい人は化学系、有機化学、無機化学、物理化学、分析化学のどれも捨てたくない人は化学応用系が合っていますよ」とアドバイスして化学応用系コースの希望者を増やせたことがありました。応用系の中でも特に洗浄研究は例外的に広さ追求の性質が顕著です。界面活性剤は有機化学や物理化学、酸・塩基は無機化学や分析化学、酸化・還元は無機化学、有機化学、分析化学、キレート作用は無機化学、分析化学、洗浄機器は機械工学等の分野が絡んできます。問題解決のための研究はまさに世界中をめぐって宝探しをしているような気分になりワクワク感で満たされます。

放送大学の学生の皆さんの中からも、洗浄研究と同様に広さを追求する研究分野を開拓して研究を楽しんで頂く方々が現れることを期待しています。

2026(令和8)年度 神奈川学習センター開講ゼミ一覧

神奈川学習センターのゼミは、所長、客員教員が主催する勉強会です。自由な雰囲気、先生からの指導、学生相互の意見交換、親睦を深めることができます。

ゼミへの参加を希望される方は、神奈川学習センターウェブサイトのトップページに掲載の「神奈川学習センター実施のゼミのご案内」のリンク先から、注意事項を確認のうえ申請を行ってください。

生活の中の老年学

安藤 孝敏 客員教授

毎月第3水曜日開催

(学生との調整により変更もあり)



老年学(ジェロントロジー)は、高齢者の生活にかかわる問題などを解明し、より良い高齢社会をデザインするための学問です。このゼミでは、日常生活の中にある高齢社会の様々な問題について、ゼミ生と一緒に考えていきます。

洗浄科学ゼミ

大矢 勝 客員教授

毎月第2または第3木曜日開催

洗浄を通して科学的な態度を楽しむ姿勢を身に付けることを目的として、毎回洗浄に関する別のテーマを設定し、それぞれの有効な洗浄方法とその仕組みについて考えていきます。



地質学・古生物学ゼミ

間嶋 隆一 元客員教授

開催日は最初のゼミ日に日程調整

地質学と古生物学に関する勉強と野外実習や見学の実施。



イグ山本ゼミ

山本 勲 客員教授

毎月第4土曜日午後開催

イグ・ノーベル賞には、直感的で興味深い現象を扱ったテーマが多い。主に物理学賞にスポットし、輪講形式でゼミ生と一緒に論文を読み深め、研究の意義や仕組みを科学的に理解することで、楽しみながらサイエンスを学びます。



グローバル時代の社会と経済政策

植村 博恭 元客員教授

毎月1回開催(基本はオンライン)

本ゼミナールは、グローバル時代の社会と経済政策のあり方について学びます。特に、様々な身近な問題を毎日働き暮らしている生活者の視点で考えていきたいと思えます。日本企業における働き方の改革、男女平等社会の実現、退職後の安心できる暮らし、個人資産の有効な管理と運用などを取り上げつつ、私たちひとりひとりの生活を支えてくれる経済政策のあり方はどのようなものか、勉強していきます。特に、若者、中堅世代、高齢者、女性、男性といった様々な世代の市民の観点からゼミを進めていきたいと考えています。



※現在、新規ゼミ生の募集は行っていません。

所長及び客員教員の異動について

神奈川学習センターでは、2025年度末をもって大谷所長及び2名の客員教員が退任され、この4月から新たな所長及び1名の先生をお迎えしました。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

❖ 2026年3月31日 退任

大谷 英雄 所長 間嶋 隆一 客員教授 杉内 肇 客員准教授 (以上3名)

❖ 2026年4月1日 着任



加藤 圭司 神奈川学習センター所長／横浜国立大学名誉教授
専門：理科教育学

「虫が好き」、「星空を眺めると癒される」等、素朴に興味の対象であるはずの「理科」が、苦手意識や忌避感を持つ対象になっています。中には、「学校を卒業したらもう使わない知識だから」等の理由づけをする人もいる、とか。面接授業では、改めて、「理科」はどのような教科であり、どこに学ぶ意味・意義を見いだせばよいのか等について、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。(所長からのご挨拶を2～3ページに掲載)



中村 博之 客員教授／横浜国立大学名誉教授
専門：原価計算論、管理会計学

会計はあらゆる組織において必要不可欠な手続きとして、世界中で定着しています。会計には外部報告のための会計と組織内で利用するための会計の2つがあります。これらについて受講する皆さんに実践的な知識となるように丁寧に説明したいと思っています。

春のフェスタ・ヨコハマ

2026年3月15日(日)神奈川学習センターにて、サークル協議会主催、学習センター後援で、学園祭行事「春のフェスタ」が開催されました。

前半は、大谷英雄所長の神奈川学習センター最終講義、後半は、シネマトバトル。

大谷ゼミ生の金田保男さんと、シネマトバトルを担当したサークル協議会副代表の島田義治さんにご寄稿頂きました。



❖ 大谷所長最終講義を聴講して

金田 保男

2026年3月15日「春のフェスタ」にて、神奈川学習センター大谷所長の最終講義が予定され、「最終講義」とのことで何としても聴きたく期待しておりました。事前に先生の講義内容「私のこれまでの研究史」パワーポイント161頁に及ぶ資料を送って頂き膨大な資料に驚きました。これを1.5時間で紹介するには時間が短すぎると感じておりました。

研究の流れ前半の、「可燃性固体・可燃性液体・可燃性ガスの火災・爆発の基礎研究」は初めて聞く内容で、今迄知らなかった部分を聞くことが出来、現在の研究に到った経過を理解することが出来ました。可燃性ガスの燃焼実験では、学会賞を受賞したとのこと、報われて良かった。「可燃性物質の燃焼抑制および消火機構」「化学工場の事故に関する調査」については少し触れる程度でしたが、「リスクを考えるゼミ」で受講しており、うち一部を紹介され、私自身も見聞きする機会があり参考になりました。

後半の「リスクマネジメントに関する研究」が一番聞きたかった部分ですが、残念ながら時間が無く紹介されませんでした。しかし今迄全く知らなかった前半部分を聞くことが出来有意義でした。ありがとうございました。

◆ シネマトバトルについて

島田 義治

これまでのビブリオバトルに代わり、今春のフェスタでシネマトバトルを初めて開催することになりました。

6人の発表者が夫々思い入れの強い映画作品について押しポイントを語り、会場参加者との質疑応答により作品の深掘りをした後、参加者からの投票により一番観たいチャンピオン映画を決めるという内容のものです。

今回の6作品は1974年～2024年に公開され、米国、中国、日本、日独合作のアニメを含む年代、製作国、内容もバラエティーに富んだ映画が取り上げ

られていて80人以上という多数の参加者も大いに盛り上がり、成功裡に終えることができました。

今後もこの企画が続けられることを期待しています。

以下、今回対象の作品(公開年月、製作国、発表者)

- ・『追憶』1974.4、米国、新沼順子
- ・『初恋のきた道』2000.12、中国、細矢富士子
- ・『ミリオンダラー・ベイビー』2005.5、米国、島田義治
- ・『君の名は。(アニメ)』2016.8、日本、石川昌幸
- ◎『PERFECT DAYS』2023.12、日独、内田柳妃
- ・『オッペンハイマー』2024.3、米国、市川良介

(◎はチャンピオン映画となった作品)

2025(令和7)年度 学位記授与式

3月20日(金・祝)ベルサール高田馬場(東京都新宿区)にて、2025(令和7)年度放送大学学位記授与式が挙行されました。また、式終了後、ホテルニューオータニ(東京都千代田区)にて、同窓会連合会主催の卒業・修了祝賀会が開催されました。

ほころびはじめた桜にあわせたように、全国各地から卒業・修了生が集いお互いの卒業の喜びを分かち合っていました。神奈川学習センターでは、354名の卒業生(学部)、8名の修了生(大学院)、そして、18名の全コースを卒業した名誉学生がありました。

名誉学生になられた、笠井政記さんからご寄稿いただきました。



教室で師と仰いだ今は無き先生の教えから頂きました。ですので、私は、人との出会い、人と接することが大好きです。大学入学と同時にサークル活動をはじめ、「社会と福祉コース」を卒業後、同窓会にも所属しました。同窓会では、全国の同窓会の会長を務めさせていただき、卒業式後の懇親会では、芸能人のあこがれでもあるプリンスホテル「飛天の間」で1,000人を超える懇親パーティーを開催することができたことが、大きな思い出として残っております。

また、先生との触れ合いも大好きですから面接授業を積極的に受講し、卒業単位の半数近くを取得いたしました。ドイツ語の先生とは、ドイツの民謡を歌い、中国語の先生とは、中国語で「北国の春」を歌って単位を頂いた思い出があります。

面接授業があり、サークル、同窓会があったからこそ学生生活を大いにエンジョイすることが出来、その結果、卒業ができたと思います。

私は、放送大学を生涯学習の場としておりましたので、卒業を目的にはしておりませんでした。ですから今後何を学んでいくか、現在考慮中ですが、今後とも「和顔愛語」の精神で、同じ時間を過ごした仲間をずっと大切に、お付き合いさせていただきたいと思っています。

◆ 卒業は、サークル、同窓会があってこそ達成できた

笠井 政記

私の学生番号は、981-270×××です。お分かりいただけましたか、27年間授業料を払い続けました。そんな私ですが、このたび無事に6コースを卒業することが出来、名誉学生の称号と、そして同窓会からは、「名誉会員」の称号を頂きました。この27年間お世話になりました諸先生、学友、サークルそして同窓会の皆様方には大変に感謝いたしております。

久しぶりに卒業式と懇親パーティーに出席しました。懐かしさと素晴らしさに感動しました。

私の信条は、「和顔愛語」です。いつも穏やかに笑顔で人と接し、相手を思いやり、言葉を慈しみながら人と接することを信条としております。この言葉(和顔愛語)は、私が30年間に亘り学んだ人間関係コミュニティ



2026(令和8)年度 第1学期 入学者の集い

4月5日(日)に第8・第9講義室にて1学期の入学者の集いが開催されました。今学期の入学者1,598名のうち出席者は約205名で、会場が満員となりました。前回までより30分早い13時より式典



を開始し、新たに学習センターに着任された加藤圭司所長から入学者に祝辞が贈られました。続くオリエンテーションで職員から放送大学の仕組みについての説明の後、「所長による勉強の仕方講習会」が入学者の集い当日としては初めて実施され、入学者は加藤所長のお話に真剣に耳を傾けていました。最後に

3つの学生団体の紹介があり15時半ごろに終了しました。

※本ページに、当日実施したアンケートの集計結果を掲載しました。(編集部)



学生生活に関するアンケート

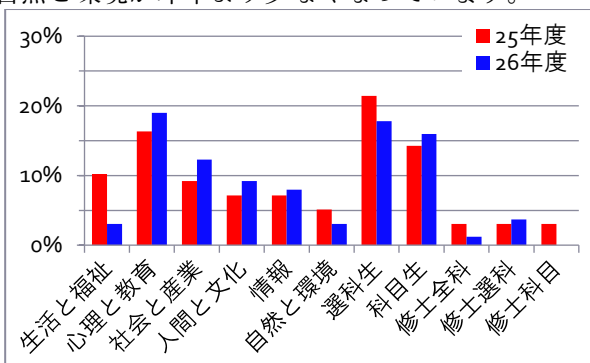
2026年度1学期の入学者の集いで参加者に用紙を配布・回収する形で、学生生活に関するアンケートを実施しました。

205名の参加者のうち163名から回答があり、回収率は約80%でした。

それぞれの項目で、昨年4月と今回を比較しながら紹介します。

参加者の学生の種類について

昨年度とくらべて、全科生が多く選科生が少ない傾向になりました。全科生の中では、生活と福祉、自然と環境が昨年より少なくなっています。



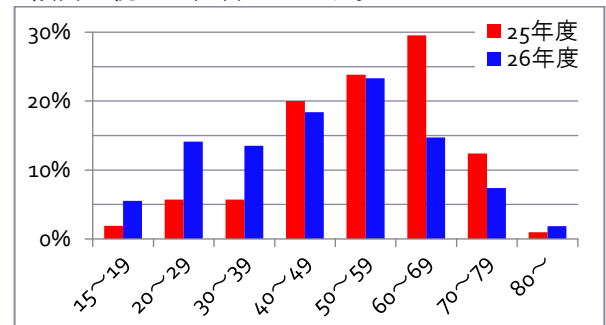
参加者の年齢構成について

昨年度と比べて60代と70代が減少し、30代以下が増えています。2020年代になって30代以下の参加者は増えたり減ったり変動が激しく、今学期はたまたま多かったという可能性もあります。

特徴的なのは、60代以上の参加者が大きく減ったことです。60代以上は面接授業やゼミの受講、サークル活動やK-サポート活動への参加の際に中心的

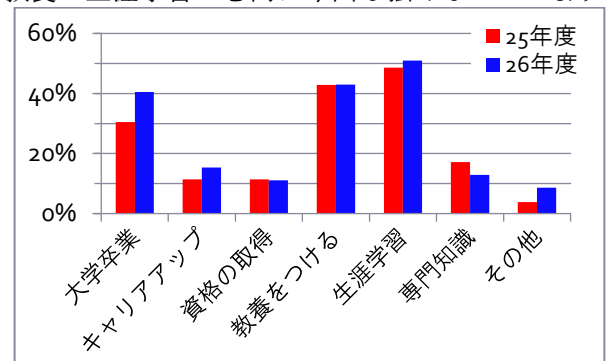
K-サポート機関紙編集チーム

な役割を担ってきた世代であるため、来年度以降この傾向が続くか注目されます。



入学動機について

やや卒業やキャリアアップ重視になっています。教養と生涯学習の志向は今回も強くなっています。



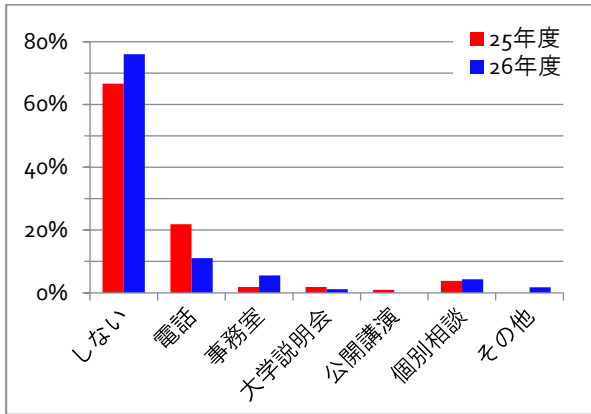
入学前に相談や問い合わせをしたか?

コロナ禍以降、「しなかった」という方がとても多くなっています。相談をしなかった方は今回さらに多くなりました。

人数が少ないので確かな傾向か分かりませんが、

学習センター事務室に相談したという方が増えて、大学本部に電話で相談したという方が少なくなりました。コロナ禍以降の傾向とは逆の動きとなっていて、次期以降どうなるかが注目されます。

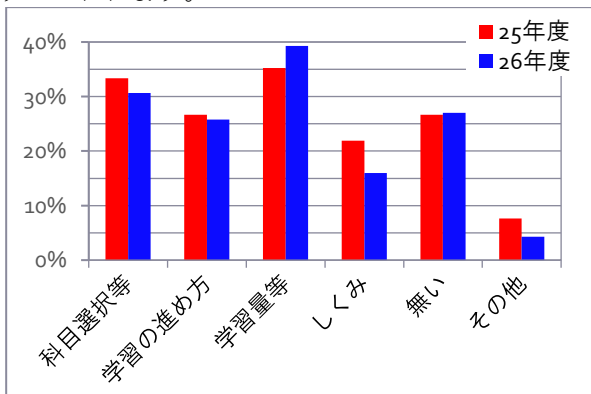
また、アンケート項目ではその他になりますが、「リモートの個別相談を利用した」という回答が2名ありました。



放送大学で分からないことや困ったことがあるか？

従来通りの傾向を示していますが、放送大学のしくみが分からないという回答が減り、必要な学習量が分からないという方が増えて、基本的な理解は、前年より進んでいると思われます。

また、その他で「大学院／卒業研究の情報が少ない」という回答が2名ありました。これもあわせると、深化した学びの情報提供に期待していることがうかがわれます。



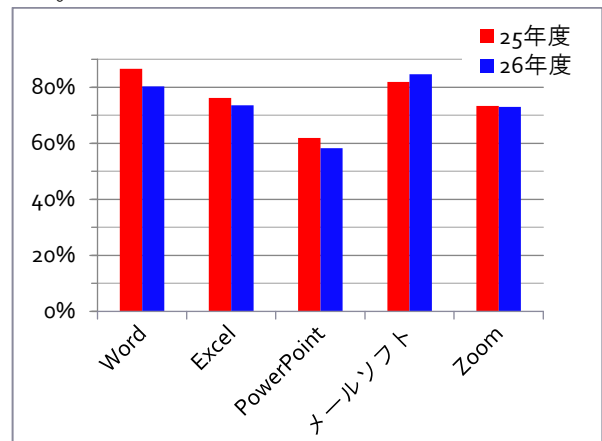
パソコンの習熟度について

ここ数年の傾向として、パソコンの習熟度が徐々に下がる傾向が続いています。今学期は、メール利用を除いて習熟度が減少しました。

スキルが低下しているとも考えられますが、入学者に若年層が多かったことから、近年は社会生活で、Word、Excel、PowerPoint 等の必要性は小さくなっているのかもしれません。

ただ、現在でも、論文やレポートには Word が必要なことが多く、科目によっては Excel の習得も必要ですし、研究発表などでは PowerPoint が必要に

なるかもしれません。学習の機会は必要だと思いました。



自由記入欄

今回の自由記入欄は、教職員への評価と期待が大きい特徴がみられました。「所長の勉強の仕方講習会」が「入学者の集い」と同日開催になった影響が出ているように感じられます。集いと勉強の仕方の相乗効果が発揮された形といえるのではないのでしょうか。

※原則趣旨に近いものが2件以上あるとき、それらをまとめて記載しました。

- 大学での学習の取り組み方や、放送大学のしくみがよく分かった（8名）
- 参加してよかった（7名）
- 加藤所長、教職員の熱心なお話で、学習意欲が高まった（5名）
- 大学では、「自律学習」が必要なことなどが認識できた（3名）
- 加藤所長の話が良かった（2名）
- オリエンテーションは、わかりやすい説明で良かった（2名）
- 学習センターをまなびの拠点として、活用していきたいと思った（2名）
- 今学期入学した仲間がたくさんいることが分かった（4名）
- 年齢層が広く、年配の方もたくさんいて安心した（2名）
- 参加することで、孤独感や不安が減った（2名）
- 式に参加して学習意欲が高まった（2名）
- 勉強の仕方、オリエンテーションの話が、理解できなかった（2名）
- 終了時間を教えてほしかった（6名）
- 説明等必要な情報と分かるが、取捨選択し時間を短くしてほしい（3名）
- 入学者の集いについて事前に詳細な案内がほしかった（2名）

学生サークルからのお知らせ

※サークルの活動内容や加入等に関するお問い合わせは、下記の各サークルの連絡先にお問い合わせください。
神奈川学習センターではお答えすることができません。

■ 神奈川放友会

- ◆1985年創立
『学び、遊び、助け合い、人生を楽しむ』をスローガンに、現在130余名の会員が、積極的に活動に参加しています。
- ◆2026年度1学期 行事予定
6月 春の学外活動 みなと科学館 プラネタリウム・国立能楽堂 能楽鑑賞
8月 夏季例会 相続税対策等「税金の話」
- ◆詳細・問い合わせ <https://kanagawa-hoyukai.jp>

■ 放大かながわレク・サークル

- ◆サークル活動：放送大学生との「仲間作り」とウォーキング等の「健康づくり」
- ◆例会：2ヶ月に1回(含、映画鑑賞会)
- ◆ウォーキング：2ヶ月に1回、「鎌倉街道」実施中。名所旧跡文化施設等も対象。
- ◆その他：観劇、観光、映画、美術鑑賞等。
上記の各種活動はいずれも自由参加。
一会員募集中(随時申込・受付) —
- ◆問い合わせ：島田 義治 090-3907-8384
bunsima829@gmail.com

■ 歩・歩の会 (地球研)

- ◆目的：地球科学ゼミ(有馬ゼミ)を発展的解消し、結成されたサークルです。地球科学をベースに自然を学び「人新世 (Anthropocene)」における地球環境危機について考え、SDGsに寄与します。
- ◆活動：毎月1回程度、活動参加の時に500円徴収
- ◆2026年度活動計画：城ヶ島、昇仙峡、丹沢山地、西伊豆の地質・地層の観察会。筑波山、鎌倉アルプス、鷹取山の山行。大鹿中央構造線巡検など。
- ◆「露頭」にご興味のある方はご連絡ください。
- ◆連絡先：earth.hoho.kanagawa@gmail.com
(代表 吉岡・中澤)

■ 韓国語同好会

- ◆韓国語の日常会話を習得し、韓国放送通信大学日本学科との日韓文化交流を通して日韓相互の生活、歴史、文化への学びを深めることを目的としています。
- ◆定例会：2回/月 第1・第3土曜日
・講師 姜貞福(カン)先生
・授業時間 9:30~10:30 初級(基礎から学びます)
10:40~12:00 中級(日常会話を学びます)
・場所 神奈川学習センター又は大岡地区センター
- ◆レク活動：近郊の関連地散策、日韓交流会等興味をもたれた方、是非お仲間！
- ◆問い合わせ：サークル協議会ウェブサイト
<https://kcc-ouj.net/dantai/hangugo/index.html>

■ 中国語学習会

中国語でチョット挨拶ができればなあとか、前から中国文化に興味あったけどという方。ニーハオ！中国語学習会です。
中国人の先生と和気あいあい、一生懸命勉強しています。初めてでも、昔勉強した人も大歓迎です。一緒に学ぶ仲間がいるのは心強いですね。
第2・第4日曜日の午前と午後、神奈川学習センターで、ぜひあなたも一緒に。
詳細は、下記までお問い合わせください。
elcondor@ra2.so-net.ne.jp：近藤または、
tomomama4213@docomo.ne.jp：細矢まで。

■ 資格取得研究会

看護・福祉分野(心理や教育系も含む)のキャリアアップや進学・就職を目指す集まりです。目標の資格は、正看護師、看護学士、認定心理士、社会福祉士など。例会は、不定期に神奈川学習センターで原則土日開催。オンライン開催併用。情報交換が中心。
◆会費：500円(1年間)
◆ウェブサイト：<https://shikakuken.net/>
◆問い合わせ：080-5546-7913 (はこぎき)

■ 神奈川合唱団

- ◆合唱未経験者歓迎
- ◆合唱を愛好する皆さんと一緒に音楽を通して学生生活をエンジョイするサークルです。現在30余名の学生が合唱を楽しんでおります。
- ◆2026年4月には、国際シニア合唱祭(みなとみらい大ホール)で<空は今><春に>を歌いました。
- ◆指導は、発声・歌唱を清水一成先生(プロのオペラ歌手)、ピアノ伴奏を村上千絵先生のご指導で練習に励んでおります。
- ◆場所：大岡地区センター 音楽室2階
(神奈川学習センターの斜め前のビル)
- ◆練習日：毎月第2・第4水曜日 18:30~20:30
- ◆連絡先：nobukishi0429@gmail.com

■ スペイン語研究会

在校生の皆様！新入生の皆様！
スペイン語研究会へようこそ！
陽気なベルー女性講師と愉快な仲間が和気あいあいとスペイン語とスペイン語圏文化などを学んでいます。まずはお気軽に見学から！いつでも大歓迎です！
笑いと美食、銘酒の懇親会なども楽しみに！
◆毎月2回(原則第1・第3水曜日)
◆会費 中級2,000円/月、初級1,000円/月
◆場所 原則神奈川学習センター
◆連絡先 中田 博久 <http://cdek.yokohama>

■ うえるかむ Kanagawa

私達は英語を楽しみながら学んでいるサークルです。

- ◆例会は原則、毎月第2・第4水曜日。
- ◆外国人講師英会話(対面/Zoom、10:00~11:30)
(参加費有料、初級・中級・上級クラス順に会話)
- ◆Group Study (学生同士、13:00~15:30、開催時間はグループにより変わることがあります。)
入門 : 対面(春・秋)、Zoom(夏・冬)
初中級: 対面
中級 : 対面(春・秋)、Zoom(夏・冬)
上級 : 対面(土曜日又は水曜日)
- ◆スクラブルデイ: 年2回開催
- ◆会費: 1,000 円/年
- ◆ウェブサイト: <https://welcome-kanagawa.jimdofree.com>
- ◆問い合わせ: 金子 響 kaneko-toyomu@outlook.jp

■ ダンスサークル (社交ダンス)

ダンスはスポーツ! 人生 100 年時代に向けて健康増進、素敵な姿勢、ストレス解消に是非一緒に踊りましょう。現在部員は 10 名、優秀なインストラクターの元で毎回楽しくレッスンに励んでいます。未経験者大歓迎です! 先ずはお気軽に見学にお出下さい。

- ◆神奈川学習センター第7講義室
- ◆毎月2回、原則第2と第4木曜 14:00~16:00
- ◆会費 1,500 円/月、年会費 1,000 円
- ◆ダンスパーティーで踊れるレベルへ練習(モダン、ラテン)
- ◆連絡先 三浦直彦 miuranaoh21@gmail.com

■ 人間学研究会

人間がかかわる様々な事について、多面的視野から学習し、会員の交流と親睦を図っている現代の寺子屋です。会員 60 名(男性 34 名、女性 26 名)

- ◆月例会: 卒業研究・旅行経験発表・茶話会・外部講師講演
・原則毎月第2土曜日 12:30
・神奈川学習センター又は大岡地区センターで実施
・日時、発表者、テーマ、概要はポスターを掲示
- ◆会誌: せせらぎ 36 号発行
- ◆学外各地の見学、散策、観察
- ◆連絡先: 片野 1310765661@campus.ouj.ac.jp

神奈川同窓会だより

■ ホームカミングデー

開催日: 2026 年 8 月 29 日 (土)

会場: 神奈川学習センター

参加費無料、事前申込不要。学園祭フェスタ・ヨコハマにあわせて放送大学の卒業・修了生が、神奈川学習センターに集って、旧交を温める行事です。

〈会報『波濤』第 71 号発行予定〉
7 月 23 日に、波濤最新号が発行されます。
発行後 <https://hatoh.net/> にて公開予定です。
お問い合わせは、info@hatoh.net

K-サポートからのお知らせ

2 月 26 日に 2025 年度 K-サポート発表会を行いました。大谷(前)所長、清水事務長、小峯係長に出席いただき、K-サポートのチームリーダーなど 9 名が参加して、2025 年度の活動結果および 2026 年度の活動計画を発表しました。教職員から活動へのご指導をいただき次年度の活動準備のスタートを切りました。

4 月 5 日に談話室で開催した「学習相談会」と「パソコンサポート受講相談会・AI デモ」には、これまでの入学者の集いの終了後より多くの新入生が相談会に参加していました。

2025年度1学期は、神奈川学習センターにて次の通りです。

4月26日(日) 談話室 (1日)

5月24日(日) 談話室 (3期)

午後1時05分から午後3時50分

①学習指導、進路指導・相談・対応
②学習の方向性、進路、授業に関する相談
③学習相談の申し込み、相談、実施に関する相談

日時: 2026年8月22日(土)

時間: 13:00~17:00 (受付16:00まで)

場所: 2F 第4講義室

内容: 2026年度2学期の科目登録に関するご相談、放送大学の学習に関するご相談

申込: 直接、2F 第4講義室の相談室にて

お申し込みは「予約書」

ご質問: K-サポート事務局による個別サポートはございません。パソコンの操作、授業料の払い方などに関するお問い合わせは、K-サポート事務局までお問い合わせください。

2026年度1学期 開校

【開校】 2026年8月22日(土) 13:00~17:00

【開校】 2026年8月22日(土) 13:00~17:00

【開校】 2026年8月22日(土) 13:00~17:00

【開校】 2026年8月22日(土) 13:00~17:00

【開校】 2026年8月22日(土) 13:00~17:00

2026 年 1 学期は、8 月 22 日に「科目登録学習相談会」が、6 月 21・28 日、8 月 22 日に「パソコン初心者塾」が予定されています。詳しくはチラシをご覧ください。皆さまの参加をお待ちしております。

(K-サポート事務局)

OUJ 神奈川学習センターだより編集部 伊藤、入江、遠田、笠井、吉川、木下、宮崎、三国 (以上、K-サポート機関紙編集チーム)、垣谷 (K-サポート事務局)、小峯 (学習センター事務局)

神奈川学習センターからのお知らせ

夏季閉所日について

8月9日(日)～8月17日(月)は閉所となります。

※上記以外の閉所日については、神奈川学習センターウェブサイト等でお知らせします。
※悪天候により公共交通機関へ影響が及ぶ場合は、臨時閉所となる場合があります。

教務関係スケジュールについて

◆ 第1学期単位認定試験について

単位認定試験は、Web受験方式により実施します。自宅等からインターネットを通じてWeb単位認定試験システムにアクセスして受験します。期間中いつでも受験可能ですが、1科目50分の制限時間があり、各科目1回のみ受験可能です。詳しくは、「学生生活の葉」を参照してください。

実施方法	出題形式	試験日程（郵送試験は提出期間）
Web試験	択一式科目	7月14日(火) 9:00～7月22日(水) 17:00
	記述式・併用式科目	7月14日(火) 9:00～7月18日(土) 17:00
郵送試験	すべての出題形式	7月14日(火) ～7月18日(土) 必着

◆ 令和8年度第1学期の成績通知 及び 第2学期科目登録について

2026年度第1学期の成績は、8月中旬に通知されますので、単位取得状況をご確認のうえ、次学期(2026年度第2学期)に履修する授業科目の登録は、必ず下記の申請期間内に行ってください。

申請期間 システム WAKABA から申請 : 8月15日(土) 9:00～8月31日(月) 24:00
郵送での申請 : 8月15日(土) 9:00～8月30日(日) 私書箱必着

2026(令和8)年度第1学期 学位記授与式について

神奈川学習センターでは、2026(令和8)年度第1学期学位記授与式を以下のとおり挙行する予定となっています。対象者には8月下旬に案内状を送付しますので、お申し込みのうえご出席ください(お申し込み方法は案内状をご確認ください)。

日程・場所 2026年9月26日(土)、神奈川学習センター講義室(時間未定)

対象者 神奈川学習センターに所属の2026(令和8)年度第1学期卒業確定者
※卒業生以外の方の参加はできません。

第37回フェスタ・ヨコハマ ～出会い・ふれあい・学びあい～

8月29日(土)～30日(日)に、神奈川学習センター学園祭「フェスタ・ヨコハマ」が開催されます。

- ◆ 8月29日 神奈川同窓会ホームカミングデー(11ページに関連記事)の他、『大岡寄席』『音楽とダンスのコラボイベント』が開催されます。
- ◆ 8月30日 10:00から加藤所長の記念講演会を開催し、その後交流会(各サークル模擬店、俳句・川柳大会、大抽選会)が開催されます。

その他、サークル展示等も予定しています。詳細が決まり次第、神奈川サークル協議会及び神奈川学習センターウェブサイト等でお知らせします。ご参加をお待ちしています！

<https://kcc-ouj.net/>

神奈川サークル協議会 で検索！

※8/30のみ参加券(1,500円)が必要です。



2026年度 第2学期 入学生募集!!

放送大学 資料請求

検索

募集
学生

教養学部(全科履修生・選科履修生・科目履修生)
大学院(修士選科生・修士科目生)

募集
期間

第1回 6月10日(水)～8月31日(月)
第2回 9月1日(火)～9月9日(水)